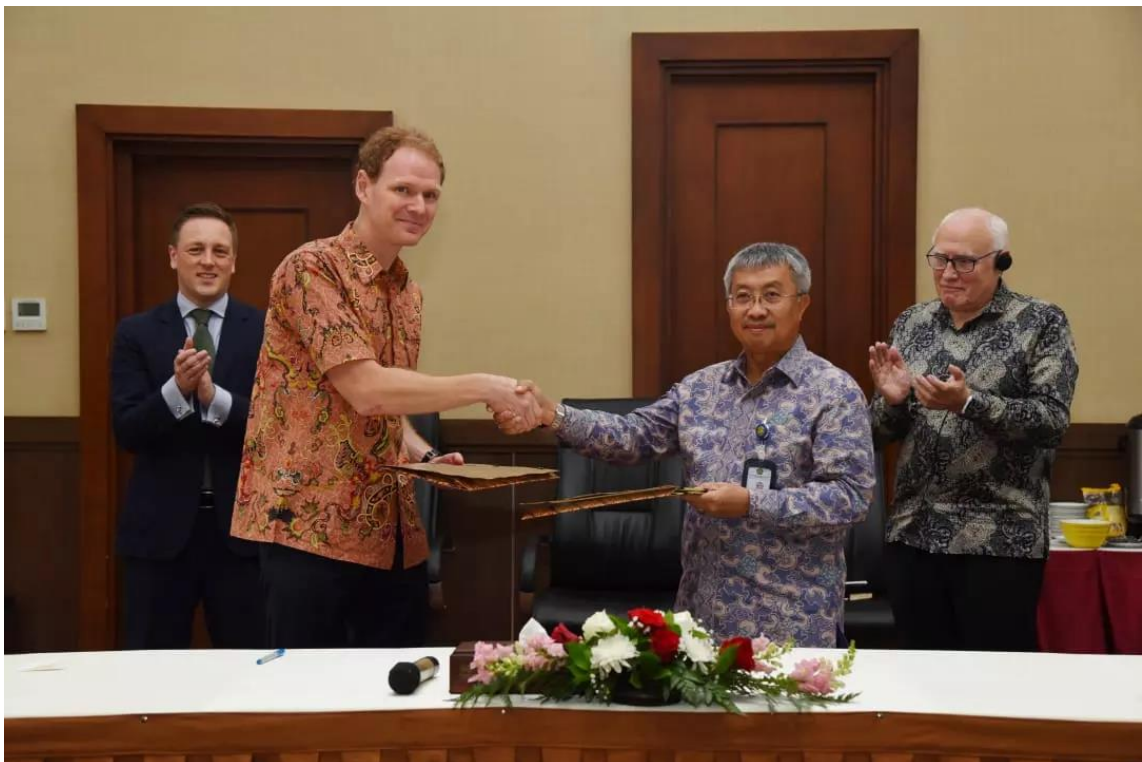


(インドネシア) - 1 件

1. エネルギー鉱物資源研究開発庁、フローレス島で地熱開発に協力
2019年1月30日

エネルギー鉱物資源省(ESDM)は30日、エネルギー鉱物資源研究開発庁(Badan Litbang ESDM)が地熱コンソーシアムと協力し、フローレス島において地熱開発を進めるプレスリリースを発表した。



東ヌサトゥンガラ州の地熱開発推進の下、エネルギー鉱物資源研究開発庁と東部インドネシア地熱コンソーシアムは、フローレス島地熱開発について覚書を締結した。東部インドネシア地熱コンソーシアムは、フローレス島での地熱発電に関心がある North Tech Energy 社と Turboden SpA dan SATE 社の2社で構成されている。エネルギー鉱物資源研究開発庁の公共サービス機関(BLU)との協力は、地熱開発と投資を促進することを目的としている。

ステイジャスト(Sutijastoto)エネルギー鉱物資源研究開発庁長官は覚書締結後、「今回の事業者と公共サービス機関(BLU)との連携は、運営協力(KSO:Kerja Sama Operasi)や管理協力(KSM:Kerja Sama Manajemen)を通して、地熱開発への投資が加速するだろう。」と述べた。

現在、東ヌサトゥンガラ州の収益は、観光、鉱業、海洋、及び地熱産業からで、マンガライ県では11社の鉱業会社があり、大量の電力を必要としている。その内の1社が10MWの電力を必要としているマンガン製錬所である。

また、東ヌサトゥンガラ州で利用可能な最大のエネルギーポテンシャルは、フローレス島にあ

る 1276 MWe と 776 MWe の地熱エネルギーである。そのため、フローレス島は 2017 年、エネルギー鉱物資源省令第 2268 K / 30 / MEM / 2017 号により地熱開発島に指定されている。現在、12 の地熱開発地域があり、ウルンブ (Ulumbu)、マタロコ (Mataloko)、およびソコリア (Sokoria) がエネルギー鉱物資源大臣から地熱開発鉱区 (WKP) の管理許可を得ている。

東部インドネシアコンソーシアムは、スリムホール掘削技術を使用し、より効率的で廉価な探査と生産掘削を行う方針で、生産段階では、地熱井の上に直接設置する坑口タービン技術を使用する。タービンは、温度と圧力の両方で、各ウェルの特性に合わせて調整できる。この技術は小規模の地熱開発に適しており大きな電力を必要としない。東部インドネシアコンソーシアムは、フローレス島での地熱ポテンシャルを開発するためのイニシアチブをとったといえる。

(出典: エネルギー鉱物資源省 (ESDM) ホームページ)